9条改憲NO！新署名スタート

自民党改憲4項目に反対し、憲法を生かし、生命・暮らしを守ろう

岸田政権は憲法への自衛隊の明記や緊急事態条項の創設などを内容とする自民党改憲4項目案をベースに憲法審査会での改憲案づくりを急ぐ。保団連は改憲をストップさせようと新署名に取り組む。協会の中村新太郎理事が会員に協力を呼び掛けている。

大阪府歯科保険医協会理事・中村新太郎

2021年の総選挙で自公維などの改憲勢力は国会発議に必要な3分の2の議席を手に入れました。

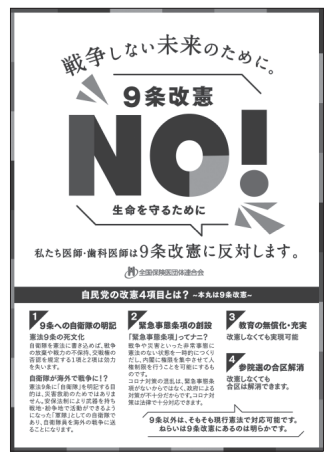
オミクロン株が猛威を振るう中で、憲法に緊急事態条項を創設しようとする動きが、自民党をはじめ改憲勢力から強まっています。

この間、政府によるコロナ対応が後手に回ったのは、現行の憲法に問題があるからではありません。また、今回のオミクロン株の感染拡大は空港検疫をどれほど徹底したとしても、日米地位協定によって米軍基地には検疫体制が及ばないという問題を露呈しました。省みるべきは憲法ではなく、日本政府のアメリカへの対応・外交のあり方です。日米地位協定を見直すとともに、国民の生命と暮らし、安全を守るために、現行の憲法を守り生かすことが求められます。

岸田首相は医療・福祉予算を抑制する一方で、軍事予算は5兆円を超え、これまでにない規模での軍拡を進めています。軍拡を正当化するための憲法の改正に反対します。

新署名の請願項目は①自民党が提唱する憲法9条に自衛隊を書き込むことなどの改憲4項目に反対します②憲法を生かし、平和と民主主義、人権、環境、暮らし・医療・公衆衛生などの向上を実現する政治を求めます―の2項目です。

今年5月、憲法は施行75年を迎えます。市民グループから全国に呼びかけられた新しい署名は、5月3日までを節目としています。協会でも平和と医療を守る重要な取り組みとして位置付けています。今号に同封している新憲法署名へのご協力を呼びかけます。



今号に同封

追加で希望される場合は、協会まで（TEL06-6568-7731）

第50回保団連大会
女性歯科医への対策強める
江原理事が発言

全国保険医団体連合会の2022―24年度の2年間の活動方針や役員の選出などを決める第50回定期大会が1月29日、WEBで開かれ、大阪歯科からは小澤力理事長と冨本昌之、平尾清司、矢部あづさ各副理事長、江原豊、玉川尚美、兵頭正道各理事が出席した。

大会方針の討論では、「『維新改革』の実態を知らせ、今夏の参院選で審判を」（矢部副理事長）、「コロナ禍での保険でより良い歯科医療の充実を求める請願署名の取り組み」「診療報酬の評価方法の歪みをただす当面の課題について」（平尾副理事長）、「コロナ禍での会員の経営と生活を守る取り組み」（冨本副理事長）、「女性歯科医師の取り組みと組織強化」、「戦争のための改憲議論ではなくコロナ対策を基地強化ではなく医療提供体制の充実を」（江原理事）の6題を発言（うち文書発言5題）。

交流の機会必要

江原理事が女性歯科医師の取り組みと組織強化について口頭発言し、大阪の女性医師・歯科医師の会のコロナ禍での取り組みを語った。例年の講習会や文化企画が行えないもと、「コロナ禍でも交流の機会を作りたい」との要求に応えようと、大阪歯科協会と福岡歯科協会のオンライン交流会を開催したことを紹介。企画を通じて現役世代への丁寧な声かけの重要性を認識し、行事参加者や役員からの紹介などをもとに、働きかけを進めていると述べた。交流会を境に、スマホでのイラスト教室を開催するなど身近な関心をテーマにした取り組みにつながってきたことを紹介。

その上で、江原氏は女性が歯科大生の約半数を占めることを踏まえ、「勤務形態が多様化する会員の要望をつかみ、講習会や企画に取り組んでいきたい。女性歯科医師向けにわかりやすい宣伝資料や発信にも力を入れ、参加しやすい組織づくりに努力したい」と決意表明した。

府のIR計画へ意見提出
カジノ誘致中止を

協会は1月21日、大阪府が推進するカジノ誘致計画「大阪・夢洲地区特定複合観光施設区域の整備に関する計画」（案）に対する府民意見等の募集に対し、▽IR区域整備の意義・目標／位置・規模等、▽懸念事項対策（ギャンブル依存症対策）の2項目で意見を提出した。要旨は次の通り。

【IR区域整備の意義】

IRはカジノ事業による収益が全体の80％程度と見込んでいるように、IRはカジノがないと成り立たないものである。地方自治体が人の不幸と失敗で儲けるカジノを誘致するなどやるべきでなく、中止すべきだ。

土壌改良に790億円も大阪市が負担することを表明しているが、市民負担がさらに増え、無駄な開発に巨額の税金を投じることになる。

【懸念事項対策】

カジノによってギャンブル依存症が生じる危険性が説明されておらず、対策を立てるというだけで具体的な根拠がない。ギャンブルによって依存症の被害が生じることは周知の事実であり、ギャンブルを誘致しないことが依存症を生まない最善の方法である。

傷病への備え
休業保障制度
募集期間：4月1日～5月25日
加入日：2022年8月1日

老後への備え
保険医年金
募集期間：4月1日～6月25日
責任開始日：2022年9月1日

従業員も安心
労働保険事務組合
随時受付

入って安心！保険医協会の共済制度
お問い合わせは共済部（TEL06-6568-7438）まで

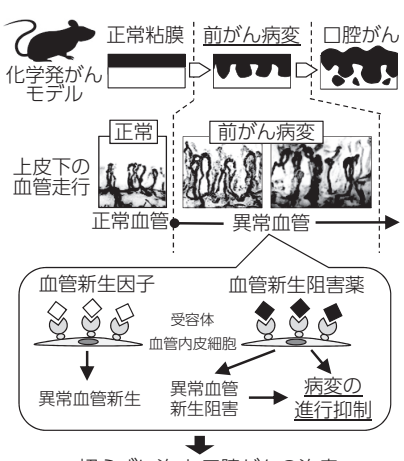
歯学研究が開く歯科の未来 ⑩
古くて新しい研究手法で、口腔がんの早期治療に挑む

大阪大学大学院歯学研究科
口腔病理学教室
教授　豊澤　悟
講師　宇佐美　悠

我が国では、年間およそ1万人が「口腔がん」と診断されています。進行した口腔がんの5年生存率はおよそ50％と低く、治癒したとしても、手術などの治療による障害が残ることもあります。最近では、がんの組織を用いて、一度に多数の遺伝子を検査して、検出された遺伝子変異に有効な薬を用いて一人一人に適した治療を行う「がんゲノム医療」が行われています。しかし、様々な条件に制約されるため、がん治療に有効な薬を実際に使用できる患者さんは検査を受けた中の10％と言われています。

口腔がんの早期発見

口腔がんは、食道がんや胃がんとは異なり、そのほとんどが「目で見て、指で触る」ことができます。それにも関わらず、口腔がんの罹患率は近年増加しています。また、口腔がん発見時の進行度合は、その予後を決定する重要な因子となるため、いかに早期に発見するかが、口腔がん治療の鍵となります。よって、口腔内の視診や触診により発見できる口腔がんの「早期発見」は、口腔の健康を守る我々歯科医師に課せられた使命とも言えます。



WHOや米国の国立歯科頭蓋顔面研究所（NIDCR）は、疑われる原因を取り除いても2週間以上存在する病変は、病変組織を一部採取して病理検査（生検）を行うことを提唱しています。また、最近では、歯科医院や自治体を主体とした口腔がん検診や、ブラシや綿棒を使った非観血的な細胞診検査が広まりつつあります。その他、粘膜の自家蛍光による病変の可視化、スマートフォンを用いたAI画像診断など早期発見のための様々な検査機器が開発されています。

前がん病変の血管異常

我々の教室では、口腔がんに進行する前段階の前がん病変を再現することができる化学発がんモデルマウスにより、前がん病変の研究を行っています。その中で、前がん病変の上皮下では、血管構造と血管新生の異常が起こっていることを見出しました。次に、血管新生の阻害薬を投与すると、前がん病変から口腔がんへの進行が抑えられることが分かり、薬による口腔がん治療の可能性が出てきました。

「癌出来つ意気昂然と二歩三歩」という句は、1915年に世界で初めてコールタールを用いて化学発がんを報告した山極勝三郎博士（東京帝国大学）が詠んだものです。

その当時の化学発がんの手法を、現在の遺伝子改変動物に用いて研究することにより、早期発見・早期治療に繋がる成果が得られると考えています。「見て、触る」ことができる口腔がんを、歯科医師が早期に発見し、チェアーサイドで塗り薬により治療するという日が来るのではないかと期待しています。